

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890300076
法人名	株式会社 穂波
事業所名	グループホーム 柿の里
所在地	愛媛県宇和島市柿原甲138番地 1
自己評価作成日	平成22年12月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>家庭と変わらぬ明るい時間を過ごして頂ける事に力を入れています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>開設時には近所の方々に、事業所の説明やあいさつに廻られた。日々の散歩等では出会う方々にあいさつをされている。7月、落語家を招き「落語会」を開催した際には、地域の老人会の方が20名程来られ、利用者と一緒にひと時を楽しまれた。事業所は通りから少し入った場所に位置し、訪ねて来る人が近所の方にホームの場所を聞くこともあるようで、近所の人は道案内をしてくれるようだ。事業所は、子ども達との交流にも力を入れておられ、地域の幼稚園の園児が来てくれて、利用者と一緒に「大きな栗の木の下で」を踊る等、楽しく時間を過ごされて、利用者の笑顔も多く見られたようだ。</p> <p>庭にはいすを設置して、芝生を敷き、時にはバーベキューやお茶を楽しまれる。又、敷地内の畑で野菜を育てたり、柿の木もあり秋には実の収穫ができる。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム柿の里

(ユニット名) 2ユニット分共通

記入者(管理者)

氏名 谷出 佳代子

評価完了日 22年 12月 1日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 玄関に理念を掲示し、ケアに迷った時には理念に立ち戻り 考えようとしている 利用者個々のその人らしさを支えていけるよう職員に対しても 意識づけをおこなっている	
			(外部評価) 事業所開設時、職員で「目指すケア」について意見を出し合 い「いつも笑顔で いきいきと 自分らしく」と、事業所理念を 作成され、利用者が「日々幸せを感じ穏やかに楽しく」暮ら せるような支援に努力をされている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 運動会を見学したり、秋祭りの神輿が事業所内を練り歩いて くれたり地域の方々に受け入れて頂けるように思う 柿の里で落語会を開催した際には老人会の方達も大勢見 学にこられた	
			(外部評価) 開設時には近所の方々に、事業所の説明やあいさつに廻ら れた。日々の散歩等では出会う方にあいさつをされている。 7月、落語家を招き「落語会」を開催した際には、地域の老 人会の方が20名程来られ、利用者と一緒にひと時を楽しま れた。事業所は通りから少し入った場所に位置し、訪ねて来 る人が近所の方にホームの場所を聞くこともあるようで、近所 の人は道案内をしてくれるようだ。事業所は、子ども達との交 流にも力を入れておられ、地域の幼稚園の園児が来てくれ て、利用者と一緒に「大きな栗の木の下で」を踊る等、楽しく 時間を過ごされて、利用者の笑顔も多く見られたようだ。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 地域の行事には積極的に参加したいと考えている 認知症の方を理解した頂けるよう、柿の里で催しを計画した いと考えている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 会議の中で報告した内容について、アドバイスして頂く事が多くその都度検討し対応できるよう努めている</p> <p>(外部評価) 会議は、2ヶ月毎、月末の平日、午後2時から開催されており、ご家族の方や民生委員の方、事業所の隣りに住む大家さん等にも参加していただいている。会議では、事業所から行事や職員会議・研修参加の報告を行い、意見をうかがうようにされている。関東に住むご家族が会議に参加された際には「地震」を経験した際のお話をうかがうことができ、そのことを参考にして事業所では「地震時の対応マニュアル」を作成することを計画しておられた。</p>	<p>会議をさらに、事業所のサービスの質向上につなげていけるよう、会議への参加者やすすめ方、議題等を工夫してみてはどうだろうか。事業所では、行事時等、地域の方が来られるような時に会議を開催して、意見をうかがうことを考えておられた。又、普段のケアの場面を見てもらったり、一緒に食事しながら、意見や感想を具体的に引き出せるよう工夫して、事業所のサービス向上に活かしていかれてはどうだろうか。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議の時にまとめてお聞きすることが多いが、制度について相談し指導、助言を受けている</p> <p>(外部評価) 市の地域包括支援センターの協力で、市内グループホームの「連絡会」が行われてきたが、このたび「11ホームが協力し合って、連絡会を運営する」ことになり、事業所の職員も役員となって他グループホームとともに、グループホームの質向上や市の認知症ケアの向上に取り組もうとされている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 利用者の安全を守りながら自由に生活できる環境作りを目指している。骨折しているにもかかわらず徘徊される利用者がいたが具体例を挙げて拘束にあたる行為の禁止を徹底した。</p> <p>(外部評価) 利用者の転倒が多々あったことから「廊下での歩行練習や散歩時にも努めて歩く」よう支援されたり、毎朝ラジオ体操を行う等、事業所では利用者個々に「筋力を付けてもらえるような取り組み」をすすめておられる。夕方になると「帰る」と言われる利用者もあるが「外は暗くなって来たから、明るくなったら一緒に考えよう」等、ご本人を否定しない言葉かけに気を付けておられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	
			虐待についての研修には参加できていないが介護にあたって虐待にあたる行為は行っていない。スタッフ、家族共に虐待への理解を深めていきたい	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	
			現在制度を利用している利用者はいないが今後利用することや、利用されることも予測される為、学んで生かしていきたい	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	
			契約時等は時間を十分にとり説明をし納得していただいて施設入所、退所時の不安や意向がききとれるよう心がけている	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	
			玄関に意見箱の設置や面会時家族に気になる事や要望など意見を聞くようにしている	
			(外部評価)	
			ご家族の来訪時や電話で、ご本人の日頃の様子を伝えておられる。又、毎月ご家族に送付する書類の中には、手書きでご本人の様子を記入されている。ご家族も一緒に散歩に出かけた際に、ご本人の歩く様子を見たご家族が「少し体力が落ちたかな」と、言われたことをキャッチして、支援に採り入れられたり、ご家族の来訪時「ご本人の様子が変わったことはありませんでしたか」とお聞きして、ご家族からの言葉を参考に、ケア等も検討されている。事業所の行事等にはご家族にも案内をされているが、参加いただくまでに至っていないようである。	ご家族への報告について、今後「ホーム便り」の作成を検討されている。ご家族は、ケアのパートナーでもあり、利用者ご本人のことや事業所のこと、認知症のことを知っていただければ、事業所からの報告や発信に工夫を重ねていかれてほしい。運営推進会議や職員のケアの取り組み、又、職員の紹介等、ご家族の知りたいこと等も聞き取りながら、取り組みをすすめていかれてはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			月に一度、職員全員参加の会議を行っている。回数を重ねる毎に意見が出るようになった、時間を越えて白熱する事も多く自由に意見を述べる環境は整い反映できていると思う	
			(外部評価)	
			職員のアイデアで、肩を骨折した利用者の体格等に合わせたオリジナルの三角巾を作っておられた。退居となった利用者の映像や写真をご家族にお渡しして、喜ばれている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			給与水準は周辺施設と比べても低くないと感じる パート勤務者を雇い勤務時間数にも余裕をもたせている	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			実践の場でアドバイスし介護力の向上に努めている 研修には勤務として参加できるよう調整している。全員が様々な研修に参加できるよう、1人1人に必要と思われる研修に参加している	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			研修で一緒になった時は情報交換を行っている 同時期に開設した事業所と交流を持ちたいと相談している	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			事前の聞き取りを十分にしよう心がけている 言葉の掛け方に気を付けるようにしている 信頼関係を築く為に、馴染みの関係になるよう努めている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 初期から信頼関係を構築するのは難しいと感じているが真剣な態度でご家族の要望を聞き出せるよう努めている	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 雑談と思われる会話からでもニーズを読みとるようにしている。職員が聞いた事、感じた事を総合的に考えるように努めている	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 掃除等、なるべく職員とともにするように心掛けている 今後調理にも参加して頂けるようにしたい	
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 通院等、ご家族の都合がつく限り職員と同行して頂くよう声掛けを行っている 変化があった時には密に連絡を取り方向性を話し合うようにしている	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 希望時の買い物支援を行っている 独居だった利用者が、家の様子を知りたいのではないかと、「一緒に見に行きますか?」と声をかけるが断られる事が多い。改善する必要がある (外部評価) 入居当日は、ご家族も一緒に事業所で食事をしてもらったり、ご家族からご自宅での様子等を聞き取るようにされている。利用者同士、仲良くなったような方もおられ、居室から出て来られるのが遅いと心配されたり、誘って来てくださったたり、やさしい、ねぎらいの言葉をかけ合うような場面もよくみられるようだ。職員も、利用者から生活の知恵を教わったり、時には相談に乗ってもらったり、励ましてくださることもあって、職員は「利用者を元気にしてあげたいのに、利用者の方から元気をもらっている」と話しておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食事の席も試行錯誤しながら、何度も替えている状況の変化により利用者同士の関係も変わっていくのでその時にベストな状況を作れるようにしている	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 病状悪化により退所になった利用者に対し見舞いに行くなど経過を見守っている。亡くなられた方の家族が畑で採れた野菜を届けてくださったり、継続した関係を保っている	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居前に本人家族からこれまでの生活について聞き取りを行っている、困難な方は職員が日々の介護の中で気付いた事を送りノートに書き留め、話し合い検討している (外部評価) 耳が聞こえにくいような利用者もおられるが、職員は、ご本人のそばでゆっくり言葉をかけるように気を付けておられる。食事の献立は、職員が利用者や相談しながら立てておられ「なすが食べたい」「魚を食べたから、今度は肉がいい」等、利用者個々の食べたい物や好き嫌いの把握をされている。職員は、ご家族との会話から、「利用者と言葉のキャッチボールができるような職員からの言葉かけの大切さ」を感じられたようだ。	職員の利用者へのかかわり方や場面作り等を工夫して、利用者個々から多くの情報を集め、利用者主体のケアへの取り組みに活かしていかれてほしい。又、利用者個々のできることでできそうなこと等をアセスメントして、利用者一人ひとりの持っている力を活かしながら生活できるような支援にも努めていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 介護記録の一番上に以前の情報をファイルしている、新しく聞いた事は毎日の介護記録に書くようにしている 本人家族との話の中から聞き出すようにしている	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 作業を優先しがちになり、1人1人とゆっくり関わりを持つ事が疎かになりやすい。団体でのレクリエーションが多くなっている その人がどう過ごしたいかを考える必要がある	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			定期的な見直しに加え状態変化時には随時見直すようにしている。本人、家族、支えてくださっている方の意見を聞きとるようにしている。画一的な介護計画にならないよう注意する	
			(外部評価)	
			ケアマネージャーが、職員やご家族等と話し合い介護計画を作成されており、3か月ごとに見直しをされている。今後さらに事業所の理念のもと、利用者個々の思いや意向にこだわりながら、支援に取り組んでいけるような介護計画の作成に取り組んでいかれてはどうか。地域やご家族等と協力し合い、利用者の生活を拓けていかれてほしい。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			介護の仕方について意見が割れる事もあるが介護に関わる全員で納得いくまで話し合うようにしている必要と思われる場合には記録とは別にノートを作り対応を記録している	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			既存のサービスに偏っている 何が出来るかを考えていく事から、始めていきたい	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			地域資源を把握していても「安全で豊かな暮らしを楽しむ」と言う所に結びつける事は難しいと感じている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	体調変化時等は家族に連絡をとり出来るだけ早い受診ができるようにし病状の悪化防止、不安軽減に努めている ご家族が受診に付き添われたり、職員が同行して、ご本人ご家族の納得が得られたかかりつけ医に診てもらえるように支援されている。	
			(外部評価)		
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	情報交換が行えるようにミニカンファレンスやノートによる伝達等により状態把握に努めている	
			(外部評価)		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)	入院中も面会に行き、医院が近付けば連携室等より連絡をもらえるよう声掛けする党関係を大切にしている	
			(外部評価)		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	重症時は入院する事が多く、看取りは検討中である。終わりのすみかとして、安心して生活が送れるようにする事が課題である ご家族から「最期までホームで見てほしい」との希望があったが、事業所の体制や力量のこともあって、病院に入院することとなった事例があり、そのようなこともきっかけで、職員会時に「看取り支援」等についての職員の考えを聞き取られた。職員はみな「最期までホームで看たい」との意見で意思が統一されたようで、マニュアル等で勉強も行われた。他事業所の取り組み等もお聞きしながら、今後、事業所でもご本人ご家族の希望に沿った支援ができる体制の整備に努力がいかれてほしい。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時の対応マニュアルや処置についてノート作成し学習できるようにしている。実践の機会は大切にし皆で再確認を行い事故防止に気を付けている	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防訓練の計画、避難訓練計画を実施している。連絡網の確認と地域住民への協力依頼も行っている (外部評価) 日中の火災を想定して避難訓練を行っておられ、さらに4月には夜間想定で避難訓練を行うことを予定されている。いざという時には、事業所の近くに住む職員が数名駆け付けて来るようになっており、又、隣りに住む大家さんも協力してくれることになっている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の意向に沿いながらプライバシー、プライドを損なう事のないよう言葉かけ、態度には気を付けるようにしている (外部評価) 利用者の中には「何かすることは無い?」と聞かれる方もいるようで、ぞうきん縫いや新聞折り等を行ってくださるようだ。利用者がさみしい・かなしい思いをしているような時には「お話をゆっくり聞いたり」「一人の時間を作る」ようにされている。さらに、生活の中で利用者個々の「できること」「頑張っていること」に焦点を当てて、一緒に喜んだり感動できるような支援から、利用者個々の自信や意欲の向上につなげていかれてはどうだろうか。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 十分に思いを聞いてない時があるかもしれないが何かを行う時には必ず気持ちや意向は聞きながら支援している	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	利用者本位でありたいと思いながらも、職員のペースに合わせた介護になりがちである。時々ではあるが、その日の希望を聞き外出する事がある
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価)	職員の中に数名、美容師の有資格者がいる為、いつでも散髪の希望に沿っている 今後は化粧して外出する等、目的を持ったおしゃれを支援していきたい
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	好きなものを聞き、メニューにいれるようにしている。軽い食器を拭いたり、下膳したり出来る事をして頂いている。一緒に調理するという点に関しては充分ではない
			(外部評価)	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価)	1人1人の状態に合わせて食事を変えている。水分摂取はペットボトルにお茶を入れ、よく飲んで頂いていると思う。夜間も訪室し飲んで頂いている栄養状態が悪い方は主治医と相談し対処している
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価)	居室とリビングに歯磨きセットを置いている。声掛けでほぼブラッシングが出来ていても最後に職員が仕上という事で確認している

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 残念ながら改善される事の方が少ない。尿意が訴えられない方は時間を決めて誘導している。レベルが落ちて紙おむつが必要になった場合でもポータブルに座る等実施している	
			(外部評価) 利用者の排泄の記録を付けて、時を見てトイレへ誘う等されている。調査訪問時には、利用者がトイレの近くで「出そうな感じがする」と職員を呼んでおられ、職員が駆け付ける様子も見られた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 果物を食べると便通が良くなるという方には食事の時多く出している。午前中、体操を皆でしている、水分摂取にも気を付けている	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 希望が夜勤帯だった場合は苦慮する所ではあるが、なるべく入って頂くようにしている。職員の都合に合わせた入浴になっていると思うので改善したい	
			(外部評価) 毎日入浴する方や一日おきに入る方等、毎日6名ほどづつ、個々に希望を聞きながら入浴を支援されている。水を怖がる利用者には、シャンプーハットを使用して不安を感じないように介助されたり、介助の必要な利用者も職員が2名で介助して、浴槽で温まれるように支援されている。脱衣所には長椅子を設置し、バスタオルを敷いて、利用者が座って着脱衣できるようにされていた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 好きな時に居室で自由に休んで頂いていると思う「夜さみしくて眠れない」と出て来られる方には職員のそばで休んで頂いている	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師が薬の確認、各個人の薬箱に準備したものを担当者が再確認出来るようにノート等も利用している。副作用等も理解し利用者の状態観察や生活の変化には注意を払っている	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 出来る事に目を向け、意欲を引き出せるようにかかわりを持つ事を心掛けている 洗濯物たたみ食器拭きモップがけなど家事の手伝いは喜んでされる利用者が多い	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近所の散歩以外に買い物やイベントに合わせて外出も計画している。1人1人の希望に沿っての支援は出来ない事もあるので気を付けて援助していきたい (外部評価) 天気の良い日には近くを2~3名づつ、順番で散歩されたり、南楽園等に出かけて季節を楽しむような外出をされている。ユニットによっては、利用者のお一人が「出かけたたい」と言われると、全員が出かけることを希望されるようで、個別に外出することが難しいような雰囲気があるようだ。散歩や外出時には、車いすも持参するが、できるだけご自分の力で歩いてもらえるよう支援されている。	今後、事業所では「公民館活動に利用者も参加できないか」問い合わせてみることを考えておられた。公民館では「おしゃべり会」のような活動もあり、利用者が地域の方と交流できるのではないかと話しておられた。さらに、利用者一人ひとり、行ってみたいところに出かけられるような支援もすすめ、利用者の「自分らしい」生活を支援していかれてほしい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 必要に応じて所持してもらっている事もあるが、現在は施設管理を行っている。買い物時は利用者にも所持してもらっている	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自らの電話や手紙等は希望があれば支援している。年賀状の作成をすすめ計画している	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>中庭と畑に職員と利用者が一緒に花を植えている。柿の木に実が成った時には収穫し味わった、季節感を感じて頂けるよう旬の物を使った料理を出したり、共有ホールに花を飾るようにしている</p> <p>(外部評価)</p> <p>居間には、テーブルと椅子が設置されており、椅子の前脚にキャスターを取り付けて、引きやすくされている。又、各所に手すりが付けてあり、廊下で歩行練習をする方もいる。ホワイトボードに今日の食事の献立を書いて、利用者に知らせておられる。庭には椅子を設置して、芝生を敷き、時にはパーベキューやお茶を楽しまれる。又、敷地内の畑で野菜を育てたり、柿の木もあり秋には実の収穫ができる。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>部屋の入口には目印になるよう花を飾っている。なるべく今まで使っていたタンス等を置いたりして自分の部屋らしさを出している、中には仏壇を持って来られている方もいる</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ほとんどの方が、個性のある部屋になっていると思うがなかには何も私物を持って来られていない方もいる。殺風景になりがちなので一緒に作った作品を飾ったりしている</p> <p>(外部評価)</p> <p>以前一人暮らしをしておられた方は、たんすや身の回りのものも居室に持ち込み、ポータブルトイレにもつい立をして使用しておられた。又、テーブルを出してノートに写経されたり、お天気等を書き留めておられた。洗面所が全居室に設置されており、トイレが付いている居室もある。利用者が手縫いしてくださったぞうきんで、職員が掃除をしておられる。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>洗濯物を洗濯機に入れに行く、食器をさげるといった簡単な事が主になっているので、行動範囲が広がるよう工夫してゆきたい</p>	